



(右から) PGA 倉本昌弘氏 JAUPES 安西祐一郎氏 GMAC 馬場宏之氏 調印式を終えて



大学授業に連携協力がはじまる！

取材・JGRA 広報委員会

6月27日、東京駅八重洲カンファレンスセンターにおいて、(公社)全国大学体育連合と(公社)日本プロゴルフ協会、JGRA 他5団体が構成しているゴルフ市場活性化委員会が「大学体育のゴルフ授業」充実を目指して連携協力調印式及び記者発表が行われた。スポーツ庁長官 鈴木大地氏が「ゴルフの難しさは努力家の日本人の気質に適している。ゴルフがスポーツとして浸透し、生涯スポーツの代表格になるよう応援していきたい。この連携により発展することを期待している。」と冒頭で挨拶した。武蔵野美大準教授・北徹朗氏が説明に立ち、大学体育の現状を発表。782大学の調査結果では、延べ約580の授業があり毎年数万人から10万人以上が受講していると推計。しかし、コースラウンドを実践しているのは50の授業のみとの現状も見えた。また受講した多くの学生からは「またゴルフをしたい」「コースラウンドしたい」との声が聞かれるという。現状、大学で所有するクラブは古いものが多くスペックもバラバラ。安全面が懸念されるもの、レディース

やレフティに乏しいことも実体として明らかだ。コースデビューしやすい環境の整備、用品の提供や開発なども求めている。更に指導技術の普及、大学授業向けの教本など共同開発の提案もあげた。



現役大学生山口さん(4年生)は率直な感想を述べた。「子どものころ、単純に高価なスポーツという認識でした。でも、大学の授業でゴルフを体験し課外授業の『Gちゃれ』でコースに出て更に向上心が湧きました。ゴルフを共にできる友人が少ない現状ですが、みなさまの力をお借りして機会が増えればいいなと思います。」



スポーツ庁長官 鈴木大地氏 挨拶

8月のゴルフフェスタではスポーツ庁長官杯を全国で展開しサポートする。ゴルフの腕前は「水泳ほどでない」と会場の笑いを誘い「ゴルフが生涯スポーツの代表格になるよう応援したい」と語った。



(公社)全国大学体育連合 常務理事 北 徹朗氏

武蔵野美術大学・身体運動文化 準教授でもある北氏は、学生の実体や現状をとりえ課題から提案までを説明した。